

太陽熱高反射塗料の性能評価(第八報)
(高反射率塗料の経年変化)

(財)日本塗料検査協会 東支部検査部 清水亮作
日塗検ニュース2009

地球温暖化現象やヒートアイランド現象に対応して、既設の建築物などに、塗るだけで蓄熱、制御が期待できる「高反射率塗料」が注目されている。日射反射率の経年変化、付着した汚れの洗浄における汚れ成分によって低下した日射反射率がどの程度回復するのか等について検討。暴露試験に加え促進試験(サンシャインカーボンアーク灯式)による評価手法の可能性も検討した。サンシャインカーボンアーク灯式促進耐候試験機で合計3000時間まで照射し、応用に効果があることが分った。

温泉水による金属材料の腐食

—ステンレス鋼とチタンの溶接部腐食挙動—

飯野潔 赤沼正信 片山直樹 齋藤隆之 鈴木隆広
防錆管理 Vol. 53, No.2, 2009

温泉水による金属材料の腐食挙動を調査するため、ステンレス鋼及びチタンの溶接試験片を用い、泉質の異なる北海道内4ヵ所の源泉で長期暴露(浸漬)試験を行った。塩素イオン濃度が1000ppmを超える泉質では、SUS304やSUS316Lなどのステンレス鋼では耐食性が不十分であり、チタンを使わなければならないことがわかった。YAGレーザー溶接試験片はTIG溶接試験片に比べ良い耐食性を示したが、二相ステンレス鋼ではレーザー溶接ビード部に特異な腐食が観察された。

表面に酸化チタンを担持したポリ塩化ビニルシートの耐候性試験に関する研究

柳沢琳江 小川晃旦 一之瀬秀史 福田哲夫
マテリアルライフ学会誌 JUNE2008 Vol. 20, No.2

塩ビシートの耐候性に及ぼす光触媒酸化チタンの影響を人工暴露(サンシャインカーボンアーク灯式)により検討した。全光線透過率(Tt)は、自然暴露系及び人工暴露系とも担持試料の方が未担持試料より大きい結果を示した。塩ビシートに、光触媒の酸化チタンを担持することによって全光線透過率(Tt)の増加が生じ、その結果、塩ビシートの耐候性は向上し、耐用年数が長くなることが明らかになった。

建材表面処理の十年

アルミフロダクツ No.132, 2009, p9

JIS H 8602(アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化塗装複合皮膜)の改正が審議されているが、その経緯、主要な改正点を記述。

耐候性は、キセノンアーク灯又はサンシャインカーボンアーク灯光源による耐候性試験による。複合耐食性は、紫外線蛍光ランプ試験とキャス試験の組合せの試験による。大気暴露試験の結果に基づき、標準耐用年数指針を掲げている。

アルミ建材への粉体塗装の品質規格(QUALICOAT規格)に基づく第三者品質確認システムを目的に設立した、QUALICOAT JAPANの設立背景及び事業内容の概要を紹介。

編集部

営業部 ニュース

お客様にご満足戴けるサービスを目指し、代理店との連携を更に強化しています。

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 平成21年4月24日(金) | 代理店セールスマネージャー会議開催 |
| 2. 平成21年5月20日(水) | スガ自灯会(代理店社長会)開催 |
| 3. 平成21年6月 9日(火)~11日(木) | 「自動純水装置」技術講習会開催 |

自動純水装置
MS20Z・MS35Z

